

かごしま**遺跡** フォーラム 2023

掘り出された**鹿屋**の歴史と文化



名主原遺跡（鹿屋市吾平町）

日時：令和5年12月2日（土）

会場：鹿屋市串良公民館別館

主催：鹿児島県立埋蔵文化財センター

共催：（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター・鹿屋市教育委員会

かごしま遺跡フォーラム

掘り出された鹿屋の歴史と文化

1 開会のあいさつ（13:00～13:10）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 中村和美
鹿屋市教育委員会 教育長 中野健作 氏

2 これまでの調査について（13:10～13:20）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 南の縄文調査室長補佐 関明恵

3 発掘調査報告（13:20～14:50、途中休憩）

東九州自動車道建設に伴う発掘調査の成果

～川久保遺跡（鹿屋市串良町）を中心に～

（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 文化財専門員 岩永勇亮

国道 220 号古江バイパス建設に伴う発掘調査の成果

～近年の発掘調査を中心に～

（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 文化財専門員 宮崎大和

鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴う発掘調査の成果

～名主原遺跡（鹿屋市吾平町）を中心に～

鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 今村結記

鹿屋市の発掘調査

鹿屋市教育委員会生涯学習課 文化財センター 次長 河野賢太郎 氏

4 展示遺物見学（14:50～15:10）

5 休憩（15:10～15:25）

6 パネルディスカッション（15:25～16:25）

（司会） 鹿児島県立埋蔵文化財センター 調査課長 黒川忠広

7 閉会のあいさつ（16:25～16:30）

（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター センター長 寺原徹

資料集目次

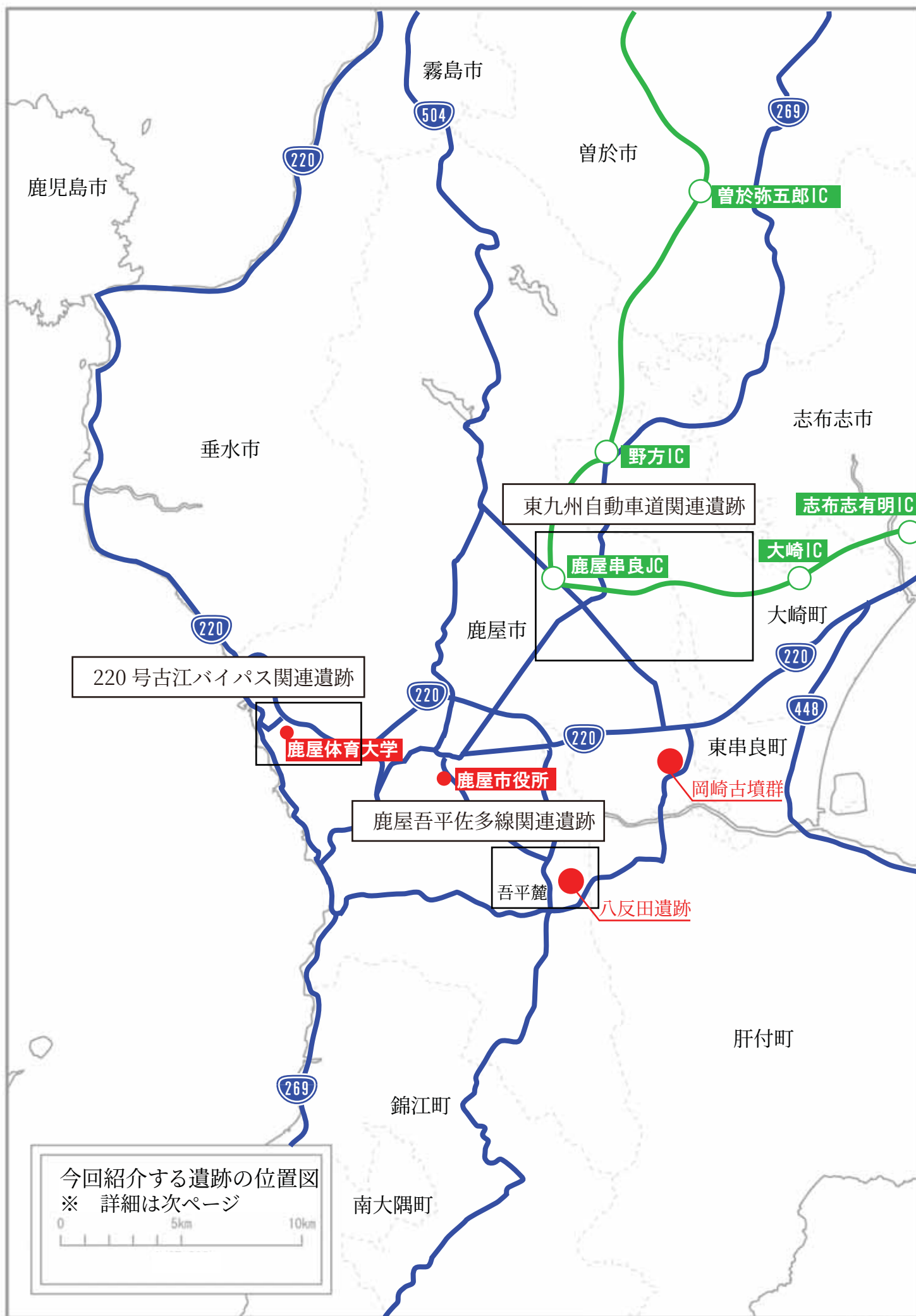
今回紹介する遺跡の位置図	2
遺跡詳細位置図	3
鹿屋市内で各事業に伴う発掘調査を行った遺跡一覧	4
調査報告 東九州自動車道建設に伴う発掘調査の成果	7
国道 220 号古江バイパス建設に伴う発掘調査の成果	10
鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴う発掘調査の成果	14
鹿屋市の発掘調査	20
鹿児島県が刊行した鹿屋市内の遺跡発掘調査報告書一覧	28
遺跡や遺物を 3D・AR 体験しよう	29

【お願い】

※ フォーラム中は携帯電話の電源を切るかマナーモードに設定してください。

※ 室内での通話をご遠慮下さい。

※ フォーラム中のカメラ撮影，ビデオ撮影もご遠慮ください。





遺跡詳細位置図（地図の縮尺は異なります）

鹿屋市内で各事業に伴う発掘調査を行った遺跡一覧（令和４年度末現在）

東九州自動車道建設に伴う発掘調査を行った遺跡

番号	遺跡名	所在地	調査年度	時 代	遺 構	遺 物
1	細山田段	鹿屋市串良町細山田	H25 ～ H27	縄文早期	埋設土器，集石	吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，中原式，押型文，平栞式，壺ノ神式，吉浜式，右京西式，石鏃，石匙，磨，敲石，石核
				縄文前，中期	土坑，土器集中	曾畑式，深浦式，大蔵山式，鷹島式，船元式，石鏃，石匙，石鏃，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石核，炭化種実
				縄文後期	土坑	辛川式，丸尾式，西平式，中岳Ⅱ式，石鏃，石匙，石鏃，スクレイパー，磨，敲石，打製石斧，磨製石斧，石皿
				縄文晩期	—	入佐式，黒川式
				弥生前期	—	高橋式
				古墳	—	成川式
				時期不明	溝状遺構，古道	—
2	小牧	鹿屋市串良町細山田	H27 ～ H29	旧石器	—	槍先形尖頭器，ナイフ形石器，三稜尖頭器，細石刃
				縄文早期	堅穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，磨石集積	前平式，吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，平栞式，壺ノ神式，吉浜式，条痕文，石鏃，石匙，石鏃，スクレーパー，块状耳飾，軽石製品，石斧，磨敲石，石皿，石鏃
				縄文前，中期	土坑，集石，ビット	曾畑式，深浦式，磨敲石
				縄文後期	堅穴建物跡，石皿立石遺構，埋設土器，土器集中，石斧集積遺構，集石，土坑	大平式，阿高式系，宮之迫式，福田K2式，中原遺跡Ⅴa，b類，指宿式，松山式，丸尾式，中岳Ⅱ式，上加世田式，石鏃，石匙，石鏃，スクレーパー，石斧，磨敲石，石皿，砥石，石製品（垂飾），石鏃，軽石製品
				縄文晩期	土坑，集石，石斧集積	黒川式，刻目突帯文，組織痕土器
				弥生	堅穴建物跡，土坑	入来式，山ノロ式，高付式，須久式系統，東海系壺，砥石
				古墳	堅穴建物跡，土坑，土器集中，礫集中，焼土集中域，ビット	中津野式，東原式，辻堂原式，笹貫式，布留式系土師器，初期須恵器，須恵器大甕，磨製石鏃，砥石，磨敲石，台石，鉄製品，勾玉，管玉，白玉，轆の羽口，土製紡錘車，土鏃
				古代	掘立柱建物跡，焼土跡，溝状遺構，土坑，ビット	土師器，須恵器
3	川久保	鹿屋市串良町細山田	H26 ～ H30	旧石器	礫群	剥片尖頭器，ナイフ形石器，敲原型細石刃核，台形石器，細石刃
				縄文早期	集石，連穴土坑，土坑	岩本式，前平式，志風頭式，加栗山式，吉田式，石坂式，下剥峯式，押型文，壺ノ神式，吉浜式，轟A式，耳栓，石鏃，磨石，敲石，叩石
				縄文前期	集石，連穴土坑，土坑	西之菌式，轟B式，曾畑式，磨製石斧，石鏃，磨石
				縄文後期	—	宮之迫式，中岳式，動物形土製垂飾品
				縄文晩期	集石，連穴土坑，土坑	入佐式，黒川式，刻目突帯文
				弥生前期	—	高橋式
				弥生中期	堅穴建物跡	山ノロ式，入来式
				古墳	堅穴建物跡，鍛冶関連建物跡，堅穴状遺構	東原式，布留式系土師器，辻堂原式，笹貫式，轆羽口，高坏脚転用轆羽口，鉄鏃，鉄斧，鉄滓，勾玉，管玉，ガラス小玉，製鉄炉，棒状礫
				古代	掘立柱建物跡，堅穴建物跡	須恵器，土師器，黒色土器，墨書土器，瓦器
				中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，古道跡	青磁，白磁，瓦器椀
4	町田堀	鹿屋市串良町細山田	H25 ～ H28	縄文早期	集石	下剥峯式，平栞式
				縄文後期	堅穴建物跡，埋設土器，落とし穴，土坑，石斧集積遺構	中岳Ⅱ式，石刀，石鏃，打製，磨製石斧，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉
				縄文晩期	—	黒川式，刻目突帯文
				弥生中期	堅穴建物跡	入佐式，山ノロ式，土製勾玉
				古墳	堅穴建物跡，地下式横穴墓，円形周溝墓，溝状遺構	成川式，人骨，鉄剣，鉄鏃，刀子，ヤリ鉋，異形石器
				古代	焼土跡，道跡	土師器，須恵器
5	牧山	鹿屋市串良町細山田	H25 ～ H29	縄文早期	堅穴建物跡，連穴土坑，土坑，集石，石器製作跡	吉田式，石坂式，下剥峯式，桑ノ丸式，押型文，石鏃，石匙，スクレイパー，磨石
				縄文前期	埋設土器（轟式）	轟B式，条痕文
				縄文後期	土坑，落とし穴状遺構，掘立柱建物跡，ビット，埋設土器，石器集中部	市来式，丸尾式，納屋向式，納曾式，西平式，辛川Ⅱ式，太郎迫式，中岳Ⅱ式，打製，磨製石斧，磨敲石，剥片，石核，石皿，石冠
				縄文晩期	—	入佐式，黒川式，刻目突帯文
				弥生中期	堅穴建物跡，掘立柱建物跡，土坑	入来式，山ノロ式，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅鑿
				中，近世	古道跡	青磁，白磁，薩摩焼

番号	遺跡名	所在地	調査年度	時 代	遺 構	遺 物
6	田原迫ノ上	鹿屋市串良町細山田	H22 ～ H26 H28 H30	縄文早期	竪穴建物跡、連穴土坑、集石、落とし穴、土坑、石器製作跡	前平式、吉田式、倉園B式、石坂式、下剥峯式、辻タイプ、桑ノ丸式、中原式、押型文、手向山式、平楕式、塞ノ神式、石槍、石鏃、石匙、磨石、敲石、石皿、打製石斧
				縄文後期	落とし穴、礫集積	指宿式、市来式、石鏃、磨石
				縄文晩期	—	黒川式
				弥生中期	竪穴建物跡、大型建物跡、掘立柱建物跡、円形、方形周溝	山ノロ式、中溝式、擬凹線文系壺、土製勾玉、鉄器、磨製石鏃、石匙、砥石、敲石、台石
				古墳以降	溝状遺構、畝状遺構	土師器碗、薩摩焼
7	立小野堀	鹿屋市串良町細山田	H22 ～ H24 H26 H30	縄文前、中期	—	深浦式
				縄文後期	—	指宿式、市来式、西平式
				弥生中期	—	山ノロ式
				古墳	地下式横穴墓、土坑墓、溝状遺構	成川式、須恵器、鉄器（刀、剣、槍、鉾、刀子、鏃等）、青銅鈴、人骨
				時期不明	溝状遺構	—
8	十三塚	鹿屋市串良町細山田	H20 ～ H21	縄文早期	—	石坂式
				縄文後期	—	凹線文、市来式
				縄文晩期	—	黒川式、三万田式
				弥生中期	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑	山ノロ式、土製勾玉、打製・磨製石鏃、磨石、敲石、砥石、棒状敲具、鉄族
				古墳	—	成川式
				中世～近世	道路状遺構	加治木銭
9	石縫	鹿屋市串良町細山田	H20～H21	縄文早期	集石、土坑	岩本式、前平式、志風頭式、石坂式、平析式、貝殻条痕文、打製石鏃、磨石、敲石
				弥生中期		山ノロ式、須玖式

一般国道２２０号古江バイパス建設に伴う発掘調査を行った遺跡

番号	遺跡名	所在地	調査年度	時 代	遺 構	遺 物
1	石鉢谷B	鹿屋市古里町	R 3	縄文晩期	—	黒川式、干河原段階（粗製深鉢、精製浅鉢、組織痕土器）、打製石斧、磨石、石皿
				弥生	—	高橋Ⅱ式、磨製石鏃
				古墳	—	東原式、笹貫式（甕、台付鉢、高坏）
				古代	—	土師器（甕、碗、皿）、黒色土器碗、須恵器甕、薩摩焼、染付、焙烙
2	石鉢谷A	鹿屋市古里町	H23	旧石器	—	剥片石器
				縄文早期	集石遺構	塞ノ神Aa式、打製石鏃、石匙、使用痕剥片、石核、磨製石斧、礫器、磨石、敲石、台石、石皿
				縄文晩期	—	黒川式（精製土器、組織痕土器）、打製石斧
				古墳	—	東原式、笹貫式（甕、壺）
				古代以降	—	土師器（甕、碗、皿）、黒色土器碗、須恵器甕、薩摩焼、染付、焙烙
3	山之上B	鹿屋市小野原町	H27	旧石器	礫群	ハンマーストーン、石英石核
				縄文早期	集石、集積遺構、硬化面	加栗山式、石坂式、桑ノ丸式、下剥峯式、右京西式、打製石鏃、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、石皿、凹石、台石、黒曜石剥片
				縄文晩期		黒川式、粗製深鉢、精製浅鉢
				古墳	竪穴建物跡、土坑	成川式
				近代	—	機銃弾
4	山之上A	鹿屋市小野原町	H 4	縄文早期	—	打製石鏃
				縄文晩期	—	黒川式（干河原段階含む）
				古墳	東原	成川式（東原式、笹貫式）、石皿、讃岐石
5	白水B	鹿屋市白水町	H 5、6 H26 R 4	旧石器	礫群、土坑	剥片尖頭器、ナイフ形石器、細石器
				縄文早期	集石、土坑	下剥峯式、石鏃、磨製石斧、磨石
				縄文後期	—	市来式、北久根山式
				縄文晩期	—	榎原紋様土器、黒川式、刻目突帯文土器、組織痕、石鏃、打製石斧
				古墳以降	土坑、柱穴列	東原式、笹貫式、土師器碗・皿、黒色土器碗、須恵器甕、薩摩焼
6	萩ヶ峰A	鹿屋市白水町	H27～H92 R 4	縄文早期	土坑	押型文土器、打製石鏃、磨石
				縄文晩期	—	黒川式（干河原段階含む）
				古墳	竪穴建物跡、土坑	東原式、笹貫式（甕、台付鉢、高坏）
7	萩ヶ峰B	鹿屋市白水町	R 4	縄文早期	土坑	—
				縄文晩期	—	黒川式（干河原段階含む）
8	白水A	鹿屋市白水町	H28	縄文晩期	土坑	黒川式
				古墳	—	成川式

鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴う発掘調査を行った遺跡

番号	遺跡名	所在地	調査年度	時代	遺構	遺物
1	名生原	鹿屋市 吾平町 下名	S63 H1	弥生中期	—	山ノロ式
				古墳	—	成川式
			R4	古墳	竪穴建物跡、土坑、地下式横穴墓、溝状遺構	成川式
2	川上	鹿屋市 吾平町 下名	H30	縄文早期	—	石坂式、塞ノ神（A、B）式、苦浜式、西之園式、石鏃、石皿（台石）、敲石、二次加工剥片、剥片、チップ
				弥生	円形周溝墓	—
3	鶯原	鹿屋市 吾平町 下名	H30	縄文早期	集石石器集中（石器製作跡）	下剥峯式、押型文土器、手向山式、妙見、天道ヶ尾式、平栢式、塞ノ神（A、B）式、苦浜式、轟A式、石鏃、石匙、スクレイパー、石皿、磨石、磨製石斧、礫器、石核、剥片、チップ
				弥生	—	山ノロ式
				古墳	古道跡	成川式
				古代	古道跡	—
4	廣牧	鹿屋市 吾平町 麓	R1	弥生	土坑、ピット	刻目突帯文土器、山ノロ式、弥生土器、打製石鏃、磨製石鏃、打製石斧、剥片
				古墳	古道跡	東原式、中津野式
				古代	古道跡	土師器
5	立塚	鹿屋市 吾平町 麓	R2 ～ R4	縄文晩期～弥生前期	土坑、ピット	黒川式、無刻突帯文土器、刻目突帯文土器、弥生土器、打製石鏃、磨製石鏃、土製品、打製石斧、石皿、磨石、敲石、砥石、石槍、黒曜石剥片、軽石製品
				弥生中期	—	山ノロ式
				古墳	—	成川式
				古代	ピット、柱穴、土坑	土師器、須恵器
6	久保田牧	鹿屋市 吾平町 麓	R1 ～ R3	縄文早期	集石	押型文土器、平栢式、貝殻条痕文土器、石鏃、石匙、磨石、礫器
				縄文前期	—	轟B式
				縄文中期	土坑、集石、敲石集石土器集中、石器製作跡	条痕文土器、野久尾式、春日式、石鏃、石匙、磨製石斧、打製石斧、磨石、敲石、環石、チップ
				縄文晩期	土坑	黒川式
				弥生	—	山ノロ式
				古墳	竪穴建物跡、土器棺、土坑、土器集中	成川式、丹塗土器、須恵器、杓子型土製品、紡錘車、鉄製品、棒状礫、炭化木、石鏃
				古代	掘立柱建物跡、土坑、畝間状遺構、柱穴	土師器、黒色土器、刻書土器、墨書土器、須恵器、土錘、石製品
				中世	掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、古道	土師器、須恵器、青磁、白磁、陶器滑石製石鍋、古銭（洪武通宝）、鉄製品
7	猫塚	鹿屋市 吾平町 麓	R1	縄文早期	集石	石坂式、下剥峯式、塞ノ神A式、鎌石橋式、石鏃、スクレイパー
				縄文前期	—	轟B式
				古墳	土坑	成川式

※ 一般国道220号古江バイパス建設に伴う発掘調査のうち、古里A・B遺跡・宇戸平遺跡については文化財課の確認調査で本路線内に遺構・遺物はないと判断され本調査を行わなかったため、一覧表からは除外した。

東九州自動車道建設に伴う発掘調査の成果 ～川久保遺跡（鹿屋市串良町）を中心に～

（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
文化財専門員 岩永勇亮

1 はじめに

川久保遺跡は、東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）建設に伴って、平成26年度から平成30年度にかけて発掘調査を行いました。調査面積は延べ96,403㎡になりました。旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世、近代の遺構や遺物が、出土しており、長い年月に渡って人々が活動していたことが分かり、住みやすい、活動しやすい環境であったと考えられます。



写真1（川久保遺跡と小牧遺跡）

2 遺跡の位置とその周辺の環境

川久保遺跡は鹿屋市串良町細山田に位置し、台地の縁辺部の標高30～60mの^{かがんだんきゅう}河岸段丘に立地しています。最も多くの遺構や遺物が発見されたのは、串良川に隣接するA地点（図1・標高30～37m）でした。串良川の対岸には小牧遺跡があります。また、川久保遺跡の西側には町田掘遺跡があり、どちらも川久保遺跡と同様に古墳時代の遺構や遺物が見つかっています。

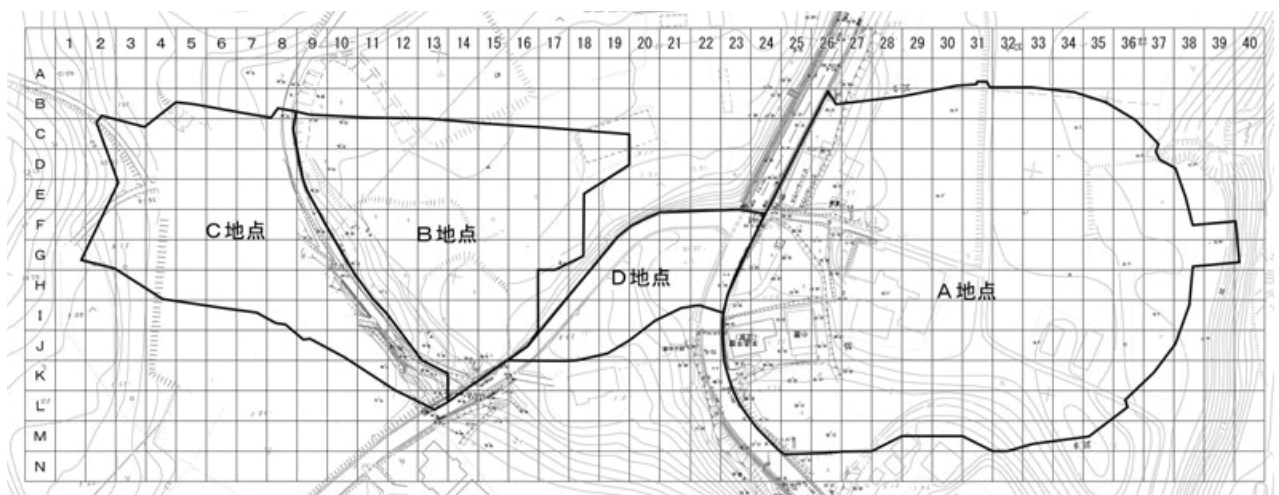


図1 川久保遺跡調査地点

3 主な調査成果

- (1) 旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と、ほぼ途切れることなく生活の痕跡が発見されました。
- (2) 旧石器時代は^{れきぐん}礫群が28基検出され、^{うねはらがた}哇原型と呼ばれる^{さいせきじんかく}細石刃核が多く出土しました。
- (3) 縄文時代早期は^{しゅうせき}集石276基、^{れんけつどう}連穴土坑12基が検出され、南九州で出土するほとんどの型式の土器が見つかりました。
- (4) 縄文時代早期末から前期にかけての層では、^{きかい}鬼界カルデラの爆発に伴う地震で発生した^{えきじょうかげんしょう}液状化現象による^{ふんさ}噴砂（シラス）がアカホヤ火山灰とともに確認されました。
- (5) 縄文時代晩期では、九州で他に類例の確認されていない動物を^{かたど}象ったと考えられ、ベングラで赤く塗られた「動物形^{どせいすいしよくひん}土製垂飾品」が出土しました。
- (6) 古墳時代は^{たてあなたてものだと}堅穴建物跡56基が検出され、そのうちの5基は建物内で^{かじ}鍛冶行為を行っていた^{かじ たてものだと}鍛冶建物跡と考えられます。
- (7) 遺跡の西側の旧谷部部分から、7～8世紀頃に造られたと考えられる^{せいでつろあと}製鉄炉跡が1基検出されました。
- (8) 鎌倉時代から室町時代にかけての^{ほったてばしらたてものだと}掘立柱建物跡が34軒検出されており、近畿地方で焼かれた^{くずはがた}楠葉型と呼ばれる^{がきわん}瓦器碗が1点出土しました。
- (9) 江戸時代中頃に使用されていた^{すみがまあと}炭窯跡が2基並んで検出されました。

4 注目される調査成果

川久保遺跡で最も注目される調査成果は、7世紀後半～8世紀後半頃に造られたと考えられる^{せいでつろあと}製鉄炉跡になります。川久保遺跡の製鉄炉跡が発見されるまでは、鹿児島県で最も古い製鉄炉跡は喜界島^{くずり}崩り遺跡で発見された11世紀（平安時代）のものでした。川久保遺跡で製鉄炉跡が発見されたことにより、喜界島の製鉄炉跡も南九州から伝わった可能性を考えることができるようになりました。

また、川久保遺跡で出土した製鉄炉跡は、その破片の接合を試みたことにより、炉の形状をほぼ復元することができました。その結果、川久保遺跡の製鉄炉は、送風口1か所の楕円形（小判形）を呈する^{えんとうけいじりつろ}円筒形自立炉であることが判明しました。これは熊本県^{あらお}荒尾市^{おおふじ}大藤遺跡1号製鉄炉跡（九州最古）に類似し、中・南九州に分布する代表的な製鉄炉の一つと言えます。

5 おわりに

川久保遺跡は令和5年3月に「川久保遺跡5」の報告書を^{かんこう}刊行したことにより、全ての時

代の報告を完了しました。今後は、得られた^{せい}成果^かを元に、隣接する小牧遺跡や町田堀遺跡の調査^{ちょうさ}成果^{せい}、さらには大隅半島の他の遺跡の調査成果と比較することにより、研究が進んでいくと考えられます。それにより鹿屋を含め、大隅半島の新たな歴史的な発見があるかもしれません。

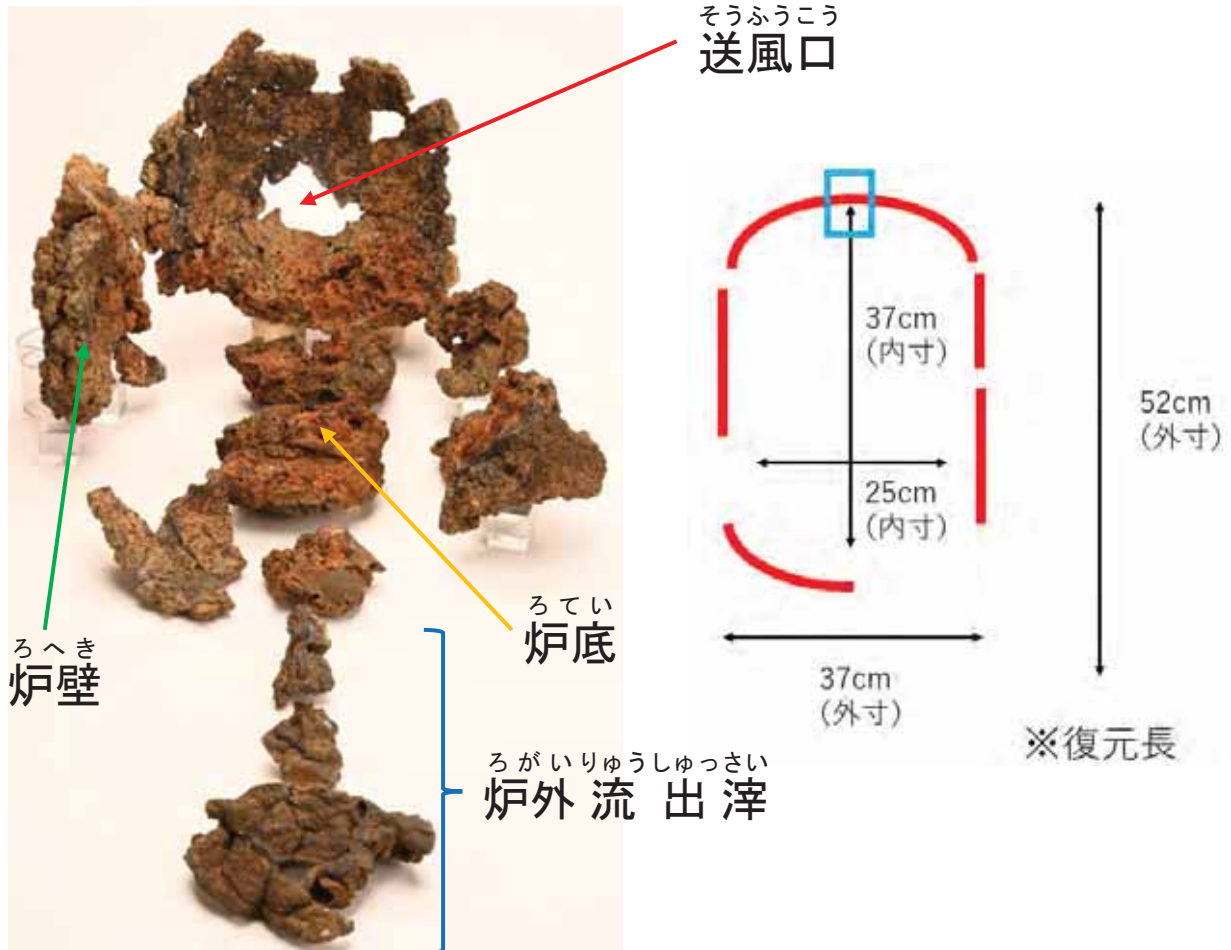


写真2 川久保遺跡の製鉄炉（想定復元）

【参考文献】

鹿児島県埋蔵文化財調査センター2023 「川久保遺跡5 A地点」公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(53)

国道 220 号古江バイパス建設に伴う発掘調査の成果 ～近年の発掘調査を中心に～

(公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
文化財専門員 宮崎大和

1 はじめに

国道 220 号古江バイパス建設に伴う発掘調査は平成 5 年度に始まり、令和 4 年度実施した「萩ヶ峰 A 遺跡ほか」発掘調査で、道路建設区間の発掘調査はすべて終了しました。その間、多くの遺跡が調査され、たくさんの成果が上がってきました。今回は長きにわたった国道 220 号古江バイパス関連の発掘調査を振り返るとともに、近年行っていた発掘調査の成果をご紹介します。



写真 1 古江バイパス全景(南から)

2 遺跡の位置とその周辺環境

古江バイパスは、垂水市新城と鹿屋市白水町をつなぐ全長約 7.5km の国道 220 号バイパスです(現在は鹿屋市古里町まで供用)。古江バイパス建設に伴う発掘調査が行われた遺跡としては、2 ページから 6 ページをご参照ください。これらの遺跡は、北側は高隈山系を臨み、鹿屋原台地を浸食しながら東南の方向へ流れる高須川の右岸に位置しています。標高約 100m ～ 170m の小高い丘の斜面上に位置する遺跡が多いです。

3 主な調査成果

今回は近年発掘調査を行っていた石鉢谷 B 遺跡、白水 B 遺跡、萩ヶ峰遺跡について調査成果を報告します。

【白水 B 遺跡】

白水 B 遺跡は白水町北迫に所在する遺跡です。平成 5・6・26 年度及び令和 4 年度に発掘調査が行われました。調査区内には北から南に下る谷が走っており、谷底部から旧石器時代の遺物がまとまって出土しました。遺物が出土した層は、ナイフ形石器文化期(VIIIa 層)と細石器文化期(VIIa・VIIb・VIIc)の 4 層が確認できました。白水地区の旧石器時代の遺跡としては西丸尾遺跡があり、ナイフ形石器文化期の礫群 5 基、細石器文化期の礫群 4 基などが確認されており、白水地区は旧石器時代の人々の活動が盛んであったことが分かります。



写真 2 白水 B 遺跡出土旧石器時代遺物

【石鉢谷B遺跡】

石鉢谷B遺跡は古里町に所在する遺跡です。令和3年度に発掘調査が行われました。石鉢谷B遺跡の主な時代は、縄文時代晩期です。石鉢谷B遺跡では豊富な縄文時代晩期土器及び石器がまとまって出土しました。また、県内でも類例の少ない石冠が出土しています（写真3）。



写真3 石鉢谷B遺跡出土 石冠

【萩ヶ峰遺跡】

萩ヶ峰遺跡は白水町本迫平・萩ヶ峰に所在する遺跡です。平成5・27・28年度及び令和4年度に発掘調査が行われ、今年度報告書を刊行する予定です。萩ヶ峰遺跡の主な時代は、縄文時代晩期と古墳時代です。縄文時代晩期については「注目される調査成果」で紹介いたします。古墳時代においては、4基の竪穴建物跡が確認されました（写真4）。この4基の竪穴建物跡内からは、東原式土器という古墳時代前期後半～中期初めごろの土器が出土しています。4基はそれぞれ特殊な形状をしており、古墳時代の竪穴建物の形状にバリエーションがあることが見て取れます。4基は大地の縁辺部に集中しており、台地部にはさらに多くの竪穴建物があつたのではないかと推測されます。



写真4 萩ヶ峰遺跡竪穴建物跡

4 注目される調査成果

【接着剤に赤色顔料？（石鉢谷B遺跡）】

石鉢谷B遺跡の縄文時代晩期土器の中には、断面が赤く塗られているものがありました（写真4）。その土器には、土器が割れた後に修復のために開けられた孔（補修孔）が4つ空いており、断面には赤色顔料が塗られています。この顔料を分析したところ、パイプ状ベンガラであることとタンパク質が含まれていることが分かりました。このタンパク質が植物性か動物性かまでは分からなかったものの、接着材に赤色顔料を混ぜていた可能性を示す貴重な資料となりました。



写真4 石鉢谷B遺跡出土 赤色顔料付縄文時代晩期土器

【縄文時代晩期の完形土器：萩ヶ峰遺跡】

前述したとおり、萩ヶ峰遺跡の主な時代には縄文時代晩期があります。これらの遺跡からは特殊な形状の土器が出土しています（写真5）。写真5左側の土器は、底部から肩部までは内湾ぎみに立ち上がり肩部から口縁部までは外反する形をしています。一方、写真5右側の土器は、底部から肩部までは外反するように立ち上がり、肩部から口縁部までは内湾する形をしています。これらの土器が完形で一緒に出土することは大変珍しいです。



写真5 萩ヶ峰A・B遺跡出土 縄文時代晩期土器

【南から来た土器：萩ヶ峰遺跡】

萩ヶ峰遺跡からは、通常大隅半島で見られる縄文時代晩期土器とは異なる胎土をした土器が出土しています。(写真6)。この土器は仲原式土器といって沖縄県で最初に見つかった土器であり、縄文時代晩期併行期（貝塚時代後1期）に沖縄や奄美諸島で使用されていた土器になります。この土器が大隅半島の遺跡から出土するのは初の事例であり、縄文時代晩期に大隅半島と南西諸島で交流があったことを証明する貴重な資料になります。土器の胎土をよく見てみるとキラキラとした火山ガラスが入っていることが分かります。現在土器の胎土分析を行っており、結果によっては土器がどこで作られたものなのかが正確に分かるかもしれません。



写真6 萩ヶ峰遺跡出土 南西諸島系土器

5 おわりに

古江バイパス建設に伴う発掘調査では多くの遺跡が調査され、古江地区、白水地区で昔の人々がどのような暮らしをしていたか少しずつ分かってきました。今年度は萩ヶ峰遺跡、白水B遺跡、山ノ上A遺跡の報告書作成作業を行っていますが、少しでも多くのことを解明し、歴史を未来へ残していければと思います。

【参考文献】

新里貴之・伊藤慎二・宮城弘樹・新里亮人 2014「琉球先史・原史文化の考古学的画期」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』六一書房

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2015『白水B遺跡』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（9）

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2023『石鉢谷B遺跡』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（50）

鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴う発掘調査の成果

～^{みょうずばる}名主原遺跡（鹿屋市吾平町）を中心に～

鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 今村結記

1 はじめに

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴い、平成30年度から発掘調査を実施しています。令和4年度までに川上遺跡、鶯原遺跡、廣牧遺跡、立塚遺跡、久保田牧遺跡、猫塚遺跡の6遺跡の発掘調査が完了しました。今回は、現在発掘調査中の「名主原遺跡」の現段階の調査成果について、報告します。

2 遺跡の位置とその周辺環境

名主原遺跡は、鹿児島県鹿屋市吾平町下名に位置します。肝属川の支流である始良川と大始良川に挟まれた標高30～40m前後のシラス台地に立地しています（写真1）。遺跡の東側を流れる始良川との比高差はおよそ30mです。このシラス台地には多くの遺跡が所在し、名主原遺跡の南側には川上遺跡が広がります。その他に、当該事業に関わるものだけでも鶯原遺跡・廣牧遺跡・立塚遺跡・久保田牧遺跡・猫塚遺跡があり、古来よりこの台地上が生活の場となっていたことが分かります。また、江戸時代には薩摩藩による外城制を構成する1箇所として、このシラス台地の東裾に地頭仮屋が置かれ、いわゆる麓集落が広がっていました。付近は、鹿屋市吾平総合支所（旧吾平町役場）が置かれるなど、現在も鹿屋市吾平町の中心となっています。

なお、名主原遺跡では、旧吾平町教育委員会が調査主体となり、平成元年度と平成15～16年度に本調査が実施されています。今回調査地点の東側にあたる、平成15～16年度の本調査地点（以下、「前回本調査」とする。）では、古墳時代前期の集落跡や、古墳時代後期の墓域などが発見されています。



写真1 名主原遺跡遠景

3 主な調査成果

名主原遺跡は、縄文時代～古代の遺跡です。現段階で確認された遺構・遺物は第1表のとおりです。以下、調査成果の概要について説明します。

(1) 縄文時代～弥生時代

縄文時代～弥生時代の遺構は確認されておらず、遺物の量も少ないです。縄文時代後期や弥生時代中期～後期の土器が出土しています。

(2) 古墳時代前期

名主原遺跡で最も遺構や遺物が確認されている時期が、古墳時代前期頃です。約50基の竪穴建物跡のほか、溝状遺構や土坑などが確認されています。前回本調査で確認された竪穴建物跡の数を加えると、現段階でも100基を超えており、当時期の一大集落と思われます。遺物は土器のほか、石器（石包丁や磨製石鏃、砥石など）、鉄器（鉄鏃や鉄斧）に加え、土製勾玉や丸玉、石製管玉、ガラス玉といった装身具なども出土しています。

(3) 古墳時代中期～後期

前回本調査で発見された古墳時代後期の墓跡は、今回の調査では確認されていません。また、この時期の遺物もほとんど出土しておらず、遺構は道路状遺構や溝状遺構しか確認されていません。今回発見された道路状遺構は、墓域につながる道なのかもしれません。

(4) 古代

古代も道路状遺構や溝状遺構のみ確認されています。今回の調査範囲は、古墳時代前期に営まれた集落が消滅したあとは、主に道として使われていたようです。

第1表 名主原遺跡の調査成果一覧（令和5年10月末現在）

遺構		遺物
【縄文時代】		
		土器：縄文後期土器（指宿式？）
【弥生時代】		
		土器：弥生中～後期土器（入来式、山ノ口式、免田式）
【古墳時代前期】		
竪穴建物跡	49基	土器：古墳前期土器（中津野式、東原式）
掘立柱建物跡	1基	土製品：勾玉、丸玉、紡錘車、不明土製品
土器埋設遺構	3基	石器：石包丁、石包丁未製品、磨製石鏃、打製石鏃、磨製石斧、打製石斧、石錘、磨・敲石、台石、砥石
溝状遺構	4条	
円形周溝墓？	1基	
土壙墓？	1基	石製品：管玉、軽石製品
土坑	55基	鉄器：鉄斧、鉄鏃、刀子、微小鉄片、不明鉄製品
ピット	863基	その他：ガラス小玉
【古墳時代中・後期】		
溝状遺構	3条	土器：須恵器
道路状遺構	4条	
【古代】		
溝状遺構	1条	
道路状遺構	8条	

4 注目される調査成果

古墳時代前期の集落跡の調査成果から、注目される遺構について、いくつか紹介したいと思います。

(1) 花びらの形をした竪穴建物跡

名主原遺跡では、真上から見た形が円形や方形をした竪穴建物跡のほか、花びらの形をした「花卉状住居」と呼ばれる竪穴建物跡が多数見つかっています(写真2)。突出部は一段高いものも多く、ベッドや物置、祭壇などの用途が考えられています。弥生時代～古墳時代の南九州(鹿児島県、宮崎県)を中心に分布しています。名主原遺跡では、これまで20基以上の花卉状住居が検出されており、前回本調査の成果も加えると、50基近くになる見込みで、竪穴建物の半数近くが花卉状住居であったものと思われます。1遺跡で発見された花卉状住居の数としては、県内最多となります。

中には、写真3のように重複して検出された(切り合っている)竪穴建物跡も多く、数世代この地で集落を営んでいたことが分かります。



写真2 円形の竪穴建物跡(左)と花びら形の竪穴建物跡(右)



写真3 切り合う竪穴建物跡

（２） 焼失した竪穴建物跡

名主原遺跡では、焼土や炭化材が多数確認され、焼失した竪穴建物跡と考えられる遺構がこれで10基以上見つかっています。中には写真4のように、放射状に炭化材が検出され、竪穴建物跡の上屋構造をとどめているものもあり、古墳時代の竪穴建物跡を復元するうえで有効な資料になるものと思われます。

焼失原因としては、不慮の失火や意図的な火災などが考えられます。不慮の失火であれば、生活の場で使ったであろう煮炊き用の甕や貯蔵壺などが持ち出せず、完形で残っている可能性が高いですが、名主原遺跡で確認された焼失竪穴建物跡からは、そのような状態で出土しないため、火災前に持ち出した、つまり意図的な火災であった可能性が高いと思われます。しかし、コップのような小型の土器や軽石製品などが出土しているため、廃屋儀礼に伴っておまつりをした可能性が考えられます。調査成果を整理し、検討を進めていきたいと思います。



写真4 焼失した竪穴建物跡

（３） 工房跡の可能性のある竪穴建物跡

前回本調査では、石包丁31本のほか、石包丁の未製品や砥石が見つかっており、石包丁を製作していた遺跡であることが指摘されています。今回の調査でも多数の石包丁や石包丁未製品、砥石、石包丁製作の際の副産物である石屑などが見つかっています。これらの石器が多数出土している竪穴建物跡もあり、石包丁製作の工房であった可能性が考えられます。

また、鉄片が多数出土している竪穴建物跡もあり、鉄器製作の工房もあった可能性があります。今後、各竪穴建物跡から出土した遺物の整理・分析を進め、各竪穴建物跡の用途や性格について、検討していきたいと思います。

(4) 直径約 20mの円形の溝

名主原遺跡で最も標高の高い場所から、直径約 20mの円形の溝跡が発見されました(写真5)。溝の中からは土器が多数出土しており、中には意図的に置かれたような、完形の土器がまとまって出土する地点もありました(写真6)。また、土器の表面に絵を描いた「絵画土器」も出土しています(写真7)。

溝の中心にあたる位置からは、長方形の土坑が確認されました。副葬品等は出土しませんでした。埋土の堆積状況から木棺墓の可能性が考えられます。同様な形態をした遺構が溝の北側からも確認されています(写真8)。こちら、副葬品は出土しませんでした。埋土の堆積状況から土坑墓の可能性が考えられます。

円形の溝とその中央にある木棺墓の可能性のある土坑は、いくつかの竪穴建物跡が埋まった後に構築されています。集落から墓域へ転換する頃の様子を示しているのかもしれませんが。



写真5 円形に巡る溝とその中心で検出された土坑



写真6 溝内部の土器集中箇所



写真7 溝出土の絵画土器

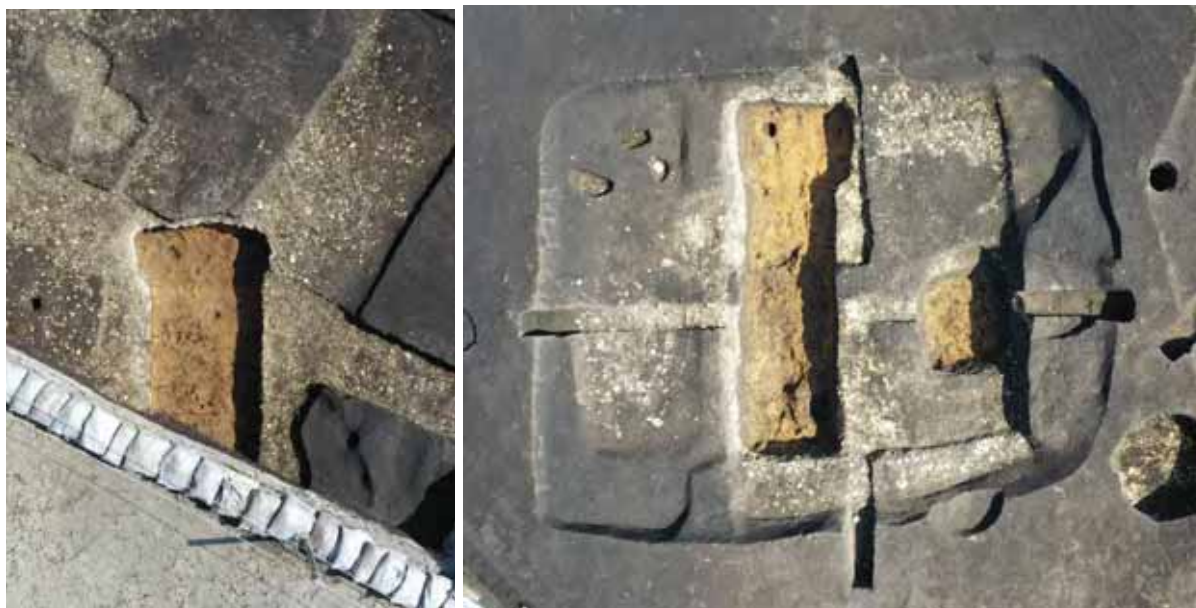


写真8 溝の中心で検出された土坑（左）と類似する遺構（右）

（５） 集落を区画する直線的な溝

今回の調査範囲の南端付近で、直線的な溝が発見されました（写真9）。溝より北側では、竪穴建物跡が確認されましたが、溝より南側では、竪穴建物跡は確認できませんでした。このことから、この溝は集落を区画する溝であることが想定されます。

調査区外に溝が伸びており、全体的な形状はわかりません。溝がどのように集落を囲っていたのか、気になるところです。



写真9 直線的な区画溝

5 おわりに

前回本調査の成果から、名主原遺跡が古墳時代前期の当地域の拠点集落であることが指摘されていました。

今回の調査により、集落の区画溝や、工房跡の可能性のある竪穴建物跡、墓跡の可能性のある遺構などが新たに確認されました。今後、名主原遺跡で出土した遺物の整理・分析も含め、検討を進めることで、古墳時代前期の集落構造の一端を明らかにしていきたいと思います。

また、焼失した竪穴建物跡については、炭化材の年代測定や樹種同定など理化学的分析も実施し、古墳時代の竪穴建物跡構造や利用されている木の種類、古材の利用の有無などについても検討を進めていきたいと思います。

鹿屋市の発掘調査

鹿屋市教育委員会生涯学習課 文化財センター
次長 河野賢太郎

1 はじめに

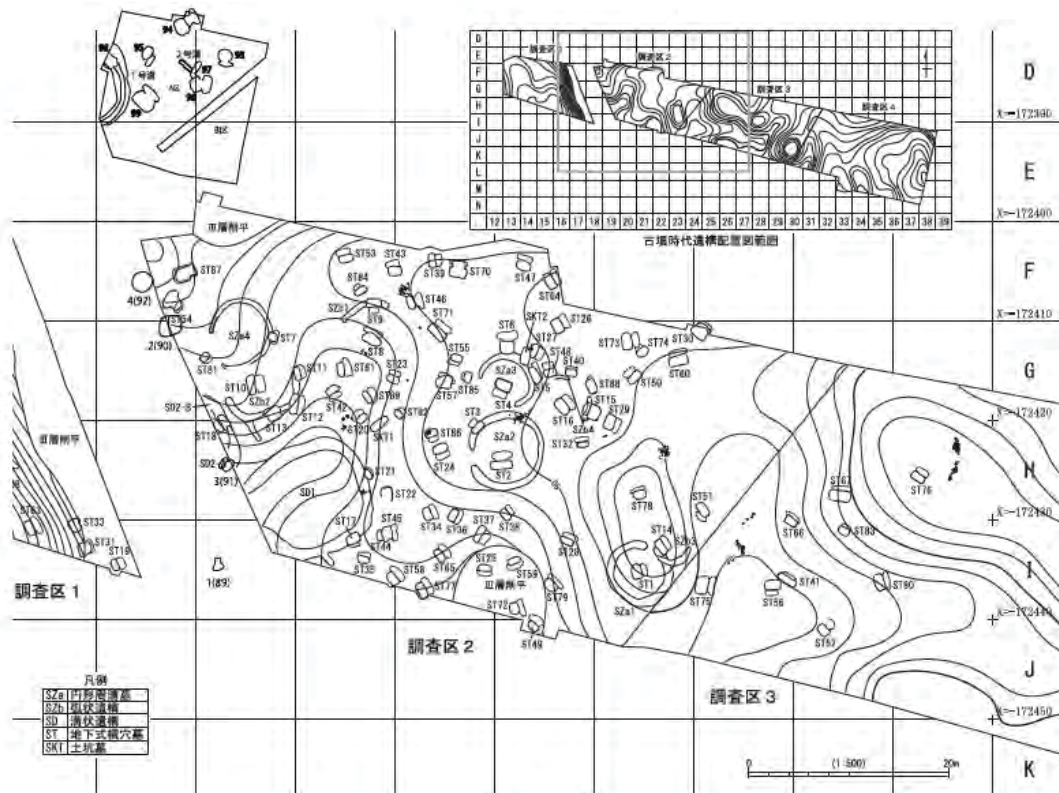
鹿屋市教育委員会で行った近年の発掘調査についてご紹介します。令和元年度から取り組んでいる「岡崎古墳群整備事業」、鹿屋市教育委員会として初めて畝間状遺構を確認した「八反田遺跡」、平成最後の年に調査した「町田堀遺跡」についてです。(第1図)

2 町田堀遺跡(第2図、第3図)

鹿屋市串良町細山田に所在します。鹿児島県による東九州自動車道関連調査で地下式横穴墓が92基確認された調査地点の隣接地での調査です。起因事業は高压鉄塔の移設で、約400㎡を対象としました。

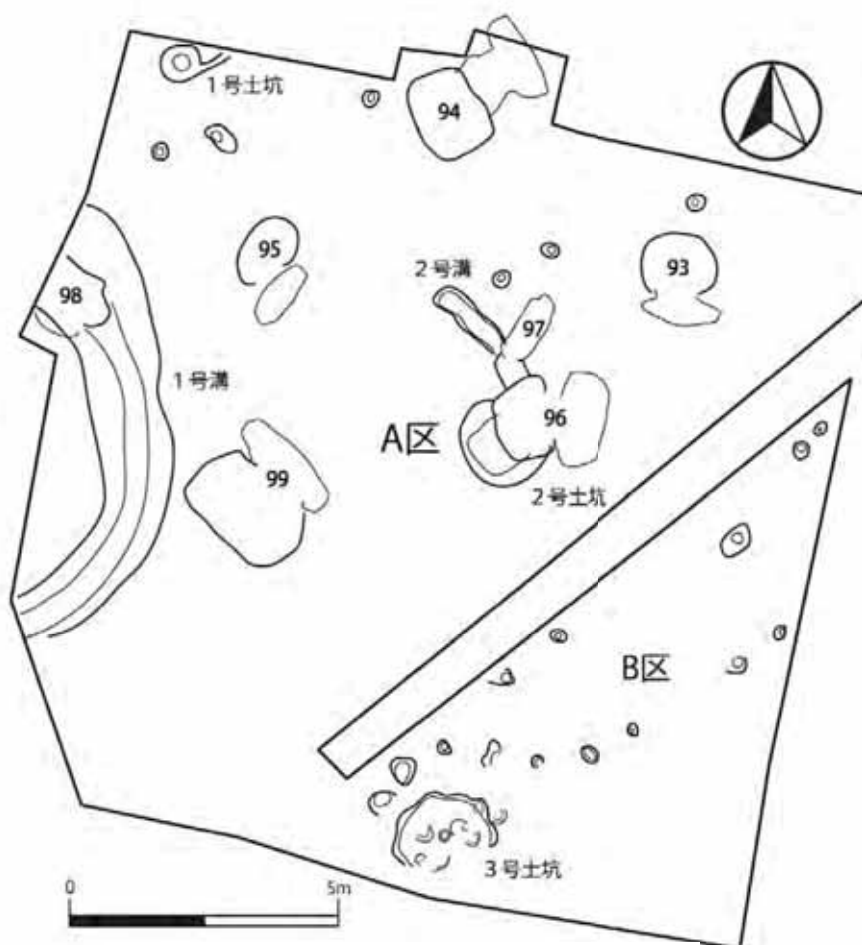


第1図 鹿屋市の近年の調査遺跡



第2図 町田堀遺跡遺構配置図(県・市合成)

鹿児島県の報告書にある地下式横穴墓の分布図から、対象地周辺は地下式横穴墓の分布は少なくなっているだろうと予想されていたので、見つかって1、2基くらいだと考えていました。ところが、結果として7基の地下式横穴墓が確認され、以前の調査では見つかっていなかった須恵器の出土もありました。鹿児島県と鹿屋市の調査成果を合せることで、より一層の理解が進むことを期待します。



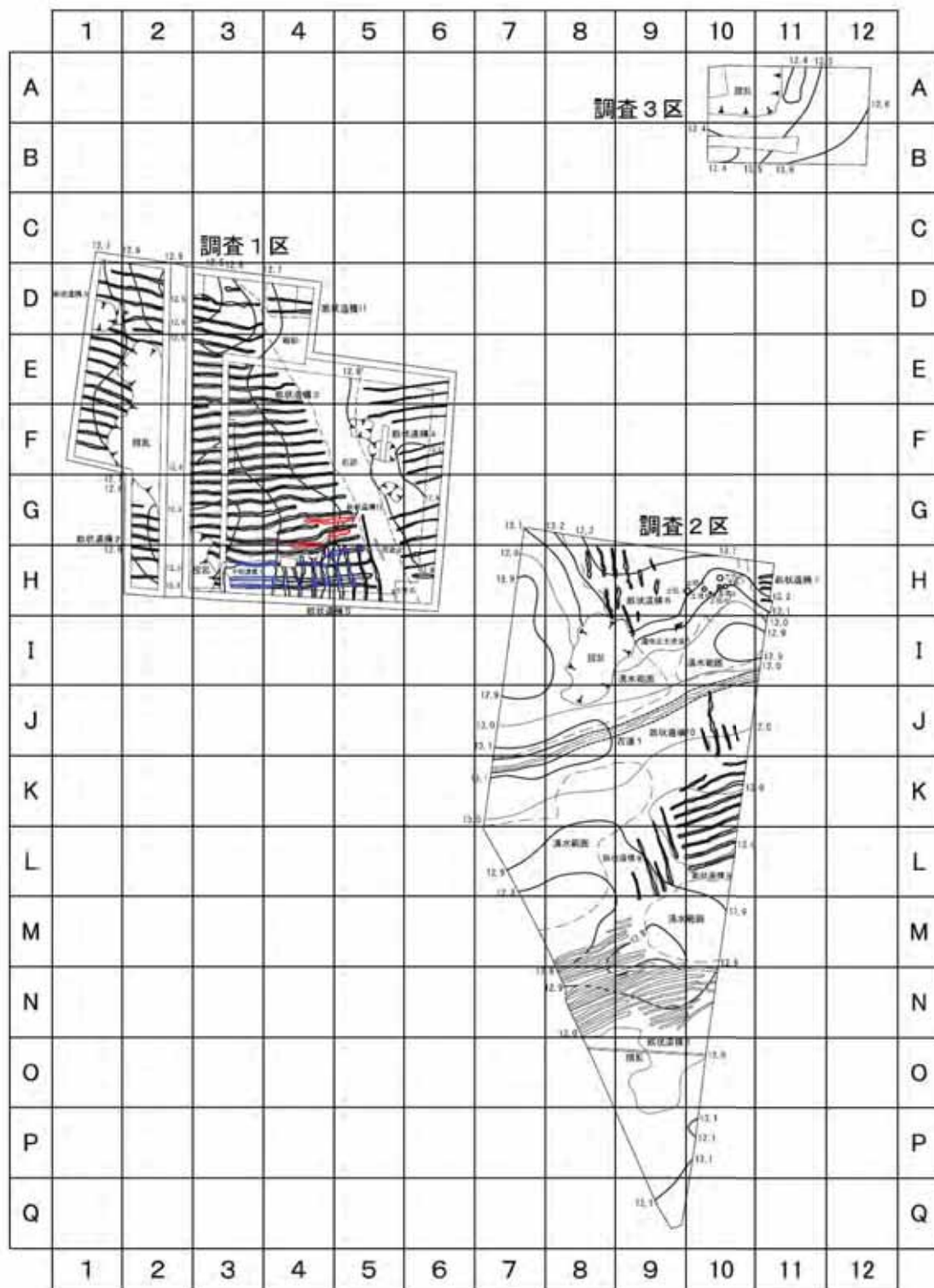
第3図 町田堀遺跡遺構配置図（鹿屋市分）

3 八反田遺跡（第4図）

鹿屋市吾平町に所在します。工場建設に伴う発掘調査です。この遺跡の最大の特徴といえば、やはり「紫ゴラ」ではないでしょうか。この紫ゴラというのは、874年に開聞岳から噴出した火山灰です。紫色をしていて、亀の甲羅のように固いのが特徴です。このように、噴火した年代がハッキリしている火山灰のことを考古学の世界では「鍵層」と呼び、調査に活用しています。

八反田遺跡では、この紫ゴラで埋まった溝がたくさん見つかりました。この溝は、畑の畝と畝の間の溝だったと考えられ、かなり広い面積が畑として利用されていたことがわかります。

この遺跡のほか、鹿児島県が調査した遺跡からも畝間状遺構として紫ゴラで埋まった溝が見つかり、9世紀ころは畑での生産活動が活発だったことが窺われます。



第4図 八反田遺跡遺構配置図

4 岡崎古墳群（第5図、第6図）

鹿屋市串良町岡崎に所在します。標高約 30mの丘の上に前方後円墳 2 基（15 号、20 号）と数基の円墳、地下式横穴墓からなる古墳群です。東串良町の唐仁 1 号墳と同じ頃に作られ、唐仁 1 号墳の被葬者に次ぐ権力者の墓域として考えられています。

日本で初めて古墳の周溝を利用して地下式横穴墓が構築される例が発見されたり、18 号墳（円墳）の周りの地下式横穴墓から花崗岩というとても硬い石で作られた石棺や豊富な鉄製品が見つかったりしました。また、前方後円墳である 15 号墳の遺体を埋葬した主体部からは、日本の国石であるヒスイでできた勾玉や、甲冑のかけらなども見つかっています。

このように、これまで多くの発掘調査成果がでている岡崎古墳群について、国指定史跡を目指すための発掘調査を令和元年度から続けています。この調査は、岡崎古墳群の特徴や、どのような価値があるのかを確認するために行っています。

令和元年度、2 年度は、4 号墳の南側エリアで調査を実施しました。おそらく古墳の周溝や、地下式横穴墓の竪坑ではないかと考えられる土の色の変化が見つかりました。また須恵器や土器がまとまって見つかっています。

令和 3 年度は、以前は塚があったとされるエリアで、失われた古墳を探すことを目的とした調査を行いました。古墳の塚が失われていても周溝は埋まっているので、その周溝を見つけることで古墳を再発見しようと考えました。結果として、失われた古墳を見つけることはできませんでした。過去にあった塚は、古墳時代のものではなかったようです。そのかわりに、これまで岡崎古墳群内では確認されていなかった、古墳周溝を利用しない単独の地下式横穴墓が新たに 12 基見つかりました。古墳文化とローカルな地下式横穴墓がどのように出会い、融合あるは共存していたかを考える上で、とても重要な情報の発見となりました。この新たな事実の発見で、より一層岡崎古墳群の謎が深まった一方、魅力も増したのではないのでしょうか。

令和 4 年度は、5 号墳というこれまで調査が行われていなかった古墳について、周溝をみつけて元の大きさを知るための調査と、10～14 号墳という、小さくて隣接していて周溝が作れないと考えられる塚について、本当に古墳なのかを調べる調査を行いました。5 号墳は、塚部分に土器の欠片などが出ているので、古墳であることは間違いないと調査当初は考えていました。ですが、調査を進めても一向に周溝の見つかる気配がありません。想定より古墳が大きい可能性もあるので、塚から離れたところも調査しましたが、やはり周溝は見つかりませんでした。古墳と認定するための最終手段として、遺体を埋葬した主体部を見つけるしかありません。塚部分を丁寧に掘削し、土の断面を観察しました。しかし、主体部らしきものはありませんでした。調査の結果、5 号墳が古墳ではない可能性が高まりました。

小さくて隣接している 10～14 号墳でも、周溝は見つかりませんでした。10 号の裾部分から五輪塔が見つかりしているので、古墳時代より後に作られた塚の可能性が高いと考えています。この結果は、岡崎台地が古墳時代に留まらず、それ以降の時代にも供養などの場所として利用されていたことを示していると考えています。

今年度の調査期間は 10 月末現在で未定ですが、令和元年度、2 年度に行った範囲の一部再

調査を予定しています。確認されていた土の色の変化が本当に周溝なのか、地下式横穴墓の
豎坑なのかを確定して、その規模についても確認する予定です。



第5図 岡崎古墳群トレンチ配置図 (R3)



第6図 岡崎古墳群トレンチ配置図 (R4)

5 おわりに

国指定史跡を目指すには、高いハードルがいくつも待っています。市民・県民の皆様のご理解とご協力無くしては実現不可能な大事業です。岡崎古墳群をはじめとする鹿屋市の遺跡や文化財について、皆様に興味関心を持っていただけるよう日々邁進してまいりますので、今後とも文化財センターの活動にお力添え頂きますようお願いいたします。

メモ

鹿児島県が刊行した鹿屋市内の遺跡発掘調査報告書一覧

鹿児島県教育委員会『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書』

(6)「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」, (9)「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」, (13)「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」, (23)「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」, (25)「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」, (34)「王子遺跡」, (44)「榎木原遺跡」, (48)「榎田下・中ノ丸・川ノ上・中ノ原遺跡」, (51)「榎木原遺跡Ⅱ」, (52)「中ノ原遺跡(Ⅱ)・中原山野遺跡・西原掩体壕跡」, (53)「榎木原遺跡Ⅲ」, (63)「榎崎 A 遺跡」

鹿児島県立埋蔵文化財センター『発掘調査報告書』

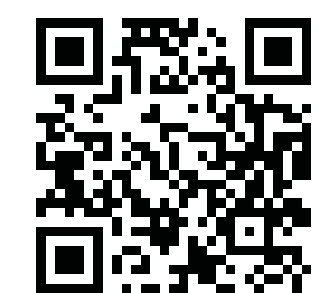
(3)「飯盛ヶ岡遺跡」, (4)「榎崎 B 遺跡」, (9)「西丸尾 B 遺跡」, (20)「神野牧遺跡」, (76)「中野西遺跡・松山田西遺跡」(根本原遺跡 A 地点), (87)「中尾遺跡」, (99)「中尾遺跡・四方高迫遺跡」, (100)「野里小西遺跡」, (102)「中ノ原遺跡・中ノ丸遺跡」, (114)「中原山野遺跡」, (132)「鷺ヶ迫遺跡・北原中遺跡・宇都上遺跡」, (133)「前畑遺跡Ⅱ」, (141)「領家西遺跡・天神平溝下遺跡」, (145)「堂原遺跡」, (164)「石縊遺跡・十三塚遺跡」, (177)「稻荷山遺跡・宇都上遺跡 早山遺跡・鎮守山遺跡」, (213)「川上遺跡・鷺原遺跡・猫塚遺跡」, (221)「久保田牧遺跡 1 (古代以降編)」

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター『発掘調査報告書』

(5)「田原迫ノ上遺跡 縄文時代前期以降編」, (7)「町田堀遺跡」, (9)「白水 B 遺跡」, (14)「牧山遺跡 1」, (15)「田原迫ノ上遺跡 2 縄文時代早期編」, (16)「立小野堀遺跡 1」, (20)「町田堀遺跡 2」, (24)「川久保遺跡 C 地点」, (25)「細山田段遺跡 1」, (26)「小牧遺跡 1」, (30)「牧山遺跡 2」, (31)「川久保遺跡 2 B・D 地点」, (35)「細山田段遺跡 2 (縄文時代前・中期編)」, (37)「川久保遺跡 3・A 地点」, (41)「山ノ上 B 遺跡・白水 A 遺跡」, (44)「牧山遺跡 3 (縄文時代前期以降編)」, (46)「小牧遺跡 3 (弥生時代～古墳時代編)」, (47)「田原迫ノ上遺跡 3・立小野堀遺跡 2」, (49)「石鉢谷 A 遺跡」, (50)「石鉢谷 B 遺跡」, (52)「小牧遺跡 4」, (53)「川久保遺跡 5 A 地点」

遺跡や遺物を3D・AR体験しよう

- ※ QRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると3DやARを見ることができます。
- ※ スマートフォンやOSのバージョンによって、表示できないことがあります。
- ※ AR体験は「STYLY」というアプリのインストールが必要です。

遺跡・遺構・遺物名	3D	AR
名主原遺跡溝跡	 名主原遺跡溝跡 (完掘) 名主原遺跡溝跡 (完掘) 名主原遺跡溝跡 (完掘)	
轟 B 式土器 (牧山遺跡出土)	 轟B式土器 (牧山遺跡：鹿屋市) 轟B式土器 (牧山遺跡：鹿屋市)	
上野原縄文の森と 埋蔵文化財センター	 上野原縄文の森と埋蔵文化財センター 上野原縄文の森と埋蔵文化財センター	
上野原遺跡復元住居		

令和 5 年度発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。



鹿児島県立埋蔵文化財センター
 霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号
 TEL 0995-48-5811 FAX 0995-48-5812
 ホームページ

<https://www.jomon-no-mori.jp/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/kagoshima.maibun/>

鹿児島県立埋蔵文化財センター



鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター



鹿児島県立埋蔵文化財センター